



学 校 便 り

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashidai/>

7月号

横浜市立東台小学校

電話 (571) 0812

令和元年6月 28日



横浜の外国語教育

校長 松本 久美子

梅雨に入り、すっきりしない天気が続いていますが、植物は暖かさと雨のおかげでどんどん大きく育っています。7組の子どもたちが育てている野菜も収穫できるものが出てきました。採りたての丸々としたナスや立派なキュウリを見せてくれた子どもたちの笑顔がまぶしかったです。

横浜市では、来年度から外国語活動が1,2年生で20時間、3,4年生で35時間、英語が5,6年生で70時間になります。(現在より3,4年生で15時間増、5,6年生は英語が教科となり、20時間増となります)英語は教科書も配付されます。内容も、身近な言葉を英語で聞いたり話したりする音声中心だったものに加えて、5,6年生では簡単な単語をなぞったり書き写したりする活動も入ってきます。

外国語活動、英語科の目標は、「外国語を使った言語活動を通してコミュニケーション力をつける」ことにあります。これからの世の中を生きる子どもたちに、世の中のグローバル化に対応できる力をつけるため、学習の内容も変化してきたのです。

英語を読んだり書いたりするというハードルが高いように感じますが、いきなり知らない単語を読ませたり書かせたりすることはありません。「聞いたり話したりして十分に慣れ親しんだ」英語をなぞったり書いたりするので心配はいりません。最初に「横浜市では」とことわったのは、文部科学省では学習指導要領上、1,2年生の外国語活動は必修になっていないからです。十分に慣れ親しむために横浜市では1年生から外国語活動を取り入れているのです。

そして、もう一つ横浜独自の活動が「国際理解教室」です。小学校の6年間で毎年異なる国の講師(IUI)が年間5回程度来校し、自国の挨拶、食べ物や遊びなどを、日本のものと比較しながら英語で紹介します。たとえ英語が分からなくても、ジェスチャーや画像、実物などを見せながら授業を行うので、子どもたちは他国の文化を自然に知ることができます。

時間数が増加し、外国人英語講師(AET)と一緒に授業を行うことができない時間もでてきます。教員たちも、担任一人でも外国語活動の授業ができるように研修を行っています。

